



# 崎川晶子リサイタル

## スピネットとフレイエルの夕べ

チェンバロ                      アンティークピアノ

～第12回 Cafe フレイエル & Gallery やましろコンサート～

# Bach から Mozart へ 「音の旅」

バッハ

モーツァルト



### 【コンサートによせて】

バッハの時代(168～1750)ピアノはまだ存在せず、チェンバロという弦をはじいて音を出す鍵盤楽器が使われていました。バッハは家族と共に家庭でも音楽を楽しみ、妻のために作曲した「アンナ・マグダレーナの音楽帳」にフランス組曲等が残されています。カフェフレイエルにあるチェンバロ属のスピネットという小型の楽器でクーラン(1668～1773)リュートの為の曲から発したと言われるフランスの古い素朴な組曲やバッハの名曲を素敵な音色と共にお聴き下さい。

後半は楽器をアンティークピアノのフレイエルに変え、まずバッハの息子エマニエルバッハ(1714～1785)の曲から始めます。チェンバロからピアノへの丁度変わり目にあたる時期の作品で、楽器の移り変わりと曲風の変化が非常に興味深いと思います。最後はモーツァルト(1756～1791)のロンドとソナタ。モーツァルトは話の途中で出会ったシュタインという作家のフォルテピアノ(モーツァルト時代のピアノのこと)に感動して父へ手紙を書いていきます。バッハからモーツァルトの時代の流れを二つの楽器の音色と共に「音の旅」として楽しんで頂けたらと思います。

文 崎川晶子

2005. 9.10 (土) 午後 6:30～

Cafe フレイエル 喫茶ホール

3,500円 (飲み物+α付)

32席 限定 要予約

使用楽器

スピネット 2001年 吉田弘司 作

ピアノ 1923年 in Paris

フレイエル No.174215

### プログラム

1. プレリユード J.S. バッハ
2. 組曲 イ短調 ルイ・クーラン
3. リュート 組曲より J.S. バッハ
4. フランス組曲第5番より J.S. バッハ
5. 2つのロンド C. Ph. エマニエル・バッハ
6. ソナタ K. 331 イ長調 モーツァルト

### 【崎川晶子プロフィール】

桐朋学園大学ピアノ科卒業。ピアノを故井口基成、兼松雅子、ジャン＝クロード・ヴァンデンエイデン、指揮伴奏を故斎藤秀雄の各氏に師事。ベルギーにてチェンバロに開眼シャルル・ケーニヒ、渡邊順生、パリの古楽コンセルヴァトワールでノエル・スピース、フォルテピアノをパトリック・コーエンの各氏に師事。クリストフ・プレガルディエン、デヴィット・トーマスなど、外国アーティストとも多数共演。渡邊順生との共演によるCD「バッハ2台のチェンバロのための協奏曲」のCDをリリース及び『J.S. バッハ/チェンバロ協奏曲集1』(コジマ録音)で渡邊順生と共演。現在ソロ、室内楽等で活躍中。「音楽の泉シリーズ」を主催。2002年6月、ソロCD『崎川晶子クラヴサンの魅力』(セシルレコード)をリリース、好評を博す。

主催: Cafe フレイエル & ギャラリー やましろ 波田町上赤松3058-5 TEL 92-8158 or 92-3404  
[http://www.geocities.jp/p\\_pleyel/](http://www.geocities.jp/p_pleyel/)

ギャラリー やましろの 加藤 大道 作品展 開催中

相馬御風の童謡詩との共作  
 “幻の童心帖”



永井隆の原画による共作  
 “原子野の花”